NRU
こくろうよなご
第１５号
２０２６年３月２５日
発行責任者　倉下文明
編　　集　教宣部

つくろう職場に労働運動を！　ひろげよう闘いを　職場に、地域に、全国に！

自問自答・胡坐を掻いては？

ＪＡＭ山陰　単組代表者会議に参加

去る３月７日、米子市のふるさとの里にて、鉄鋼・金属・機械など「ものづくり産業労働組合」の産別組織ＪＡＭ山陰の単組代表者会議に参加させて頂く機会がありました。

三菱マヒンドラ撤退

会議では、初めに代表者の方より「先日、東松江の三菱マヒンドラの事業撤退が発表された。１００年の歴史を持つ企業の撤退は周辺の企業にも大きな影響をもたらし、９００名以上の雇用が失われ、その半数は松江在住者と言われている。ＪＡＭ山陰としても早急に対策会議を立ち上げ、系列企業にも協力を呼び掛けている」「２６春闘は、１７０００円の統一要求＋格差是正分として４０００円で合計２１０００円を要求とし、山陰では、既に７６％を超える単組が要求を提出している。厳しい経営状況の上に原油価格の高騰で向かい風の中での春闘だが、物価上昇分以上の賃上げを勝ち取ろう」と挨拶がありました。

その後、各単組の要求額・要求書の提出状況について報告があり、各単組から職場状況や組合活動の現状等、意見交換がされました。

２０数名から多いところでは４００名を超えるなど単組の大きさも様々でしたが、共通して報告されていたのは、「離職の増加により人手不足が顕著であり、人材育成も儘ならない」ということです。

そのため、早出・休日出勤などで仕事こなして居られるとのことです。

離職の理由はさまざまあるようですが、賃金が低いというのも大きな要因だと言われていました。もっか、人材の流失防止が大きな課題だと言われていました。

また、仕事で手を抜くことができず困るなどの意見も出ていましたが、毎日、忙しいに仕事の遅い人がゆえに目が向いてしまうのは、ＪＲと共通する職場状況にあると感じました。

賃金・離職率におっ！

また、組合活動の悩みについては、役員会や集会などへの人の集まりが良くないことが挙げられていました。

これについても、多くの労働組合に共通する課題のようにも感じました。

春闘について言うと、「要求書の組み立てが難しい」という話も出ていたように、統一要求を元に各単組が要求書を考えられているようですが、事業の撤回が決まった「三菱マヒンドラ」のように厳しい経営環境にさらされ、年齢的にも若い役員が要求を考え交渉していることに頼もしさを感じました。

私も発言の機会を頂いたので、ＪＲの賃金の話や離職率も１％程度であるなどの話をすると、皆さん大変驚かれていました。

地場と比べると賃金も労働条件もまだまだいかもしれないと思う反面、大企業であることに胡坐をかいて、会社の経営分析などが非常に疎かになっていることを痛感しました。

実務担当者で交流！

会議の後は、場所を変えての懇親会にも参加させていただきました。そこでは、「各単組からの交渉が難しいという意見が出され、それなら交渉の具体的なやり取りなどしっかりと突き合わせをする場を作ろう」ということで、「交渉の実務者会議が行われるようになった」という話も聞かせていただいたが、国労でも各社ごとの交渉の内容などもっと交流することも必要ではないかと感じました。

また、会議に誘っていただいた書記長さんからＪＡＭ山陰の活動が紹介されている「なぜ今労働組合なのか」という書籍まで頂きました。本当にありがとうございました。

これからも機会を見つけて交流を継続していくことを約束して、お開きとなりました。

喧々諤々の議論から次の一歩へ！

３月７日、「各分会長・書記長合同会議」を開催し、今月２８日開催予定の「米子地方本部解散・地区本部結成大会」の成功に向けた意思統一を行ってきました。

また、２６春闘については、各分会での集会・チラシ配布・現場長への申し入れなど取り組みの交流を行い、１８日の回答指定日まで全力で取り組むことを確認してきました。

ダイヤ改正をはじめ、各系統における効率化施策に対する団体交渉も強化してきましたが、伯備線筋へのワンマン設備のない車両の投入をはじめあまりにお粗末な不正乗車対策への対応を強化すべきとの意見もありました。

また、衆議院選挙については、「高市自民党が何かやってくれるのではないかとの期待を抱かせた。野党にはそれがない」「中道は右寄りになって票が逃げたというが、革新系が増えたわけではない。国民の考え方自体が右によってないか」「自民党は圧勝というが比例区では２０００万票、中道は１０００万票、議席数ほど差はない。そこをしっかり見ないといけない」など、喧々諤々の議論となりました。

勝った負けたに一喜一憂することなく、何故自民党の圧勝を許したのか、さらに議論を深めていきたいと思います。

そして、当面する江津市議選の勝利を誓い、会議を終えてきました。

編集後記

米子地方本部として発刊してきた「こくろうよなご」も今号で最終号を迎えた。長い間のご愛読と紙面づくりへのご協力に編集部一同、心から御礼申し上げます。今後は、米子地区本部の機関紙として、新たな歴史を刻んでいくことになります。

働く者の思いや声を皆さんにお届けできるよう、切磋琢磨してまいります。